

四川大地震の発生

中国四川省発生時刻 2008年5月12日 14:28 (CST)、中国 四川省ガバ・チベット族羌族自治州 汶川県を震央とする大地震(震源の深さ 19km、マグニチュード 8.0)が発生し、1週間が経過した。この付近は、標高 5000m 級のチベット高原から標高 500m 前後の四川盆地へと、急激に標高が低くなる地帯であり、地形の特性が被害状況の判明や対応を困難にしている面もあるが、それだけではないようだ。

最新のニュースによれば死者は既に 3 万人を越え、状況が判明するにつれ増大する可能性が極めて高い。二次災害の発生も危惧され、人的被害は更に拡大する恐れもある。

今回の地震でチベット問題は吹き飛んだようだ、中国政府にとっては天恵か。また、日本の援助隊を先ず第一に受け入れ、その活動を周知させる等対日外交に有効に使っているが、流石に強かである。

さて、ニュース報道でしか知りえないけれども、今回の中国の大地震対応について大いなる異議を感じざるを得ない。小生の異議・異論を提示したい。勿論徒に批判を専らにする積りはない。

先ずは、亡くなった方々に哀悼の誠を捧げるとともに行方不明者の一刻も早い救出を願うものであり、その為に中国政府は元より国際社会の更なる支援を期待するものである。

① 外国の人的援助の受入れ遅延！

日本はじめ各国は人的要員の派遣を表明したものの当面必要とせずと中国政府は正式に回答してきた。中国が日本の緊急援助隊の派遣受け入れを表明したのは 15 日昼であり、救命率が極端に低下すると言われるタイムリミットを過ぎようとしていた。中国政府の決断の遅さは責められて然るべきである。

19 日夕の時点で緊急援助隊の撤収を検討していると言うのが当然だろう。中国政府の事態認識の甘さは指弾されよう。

② 地震対策の欠如！

被害が甚大になった大きな要因の一つとして地震対策の欠如が挙げられる。レンガを積上げただけの民家や所要の強度を有しない鉄筋の建物を放置したのは為政者としては大失政である。軍事力強化に狂奔しているツケとは敢えて言わないが・・・

③ 救援部隊の投入兵力僅少と遅延！

大兵力を有する人民解放軍の災害救援部隊兵力が如何程かは明確ではないが、映像でみるかぎり少ないようだし、時期も遅いのではないかと思う。今朝(5月20日)新聞によれば 10 万人規模の人民解放軍 が出動している由、規模的にはある程度相応といえよう。投入時期や活動内容としては不満が残ると言えなくもない。軍隊でなければ出来

ないような活動を重点にすべきだろう。出動が遅いのは自主積極的に災害等に対応するシステムになっていないのではなかろうか。

④ 人命救助用資機材未装備か？

救援部隊の装備が余りにも貧弱である。自衛隊が保有する人命救助システム様なものはなく、ショベルとツルハシのみとも言えよう。かつてわが自衛隊の装備も貧弱であったが阪神淡路大震災を契機にして改善された。彼の国は日本やその他の軍隊に学んでいない。そもそも災害救援を想定していないのだろう。救援部隊の服装も斉一でない。

⑤ 国家指導者のパフォーマンス！

いち早く首相や国家主席が被災地に乗り込み、一生懸命に対応しているとの印象を国民に印象付けようとしている。それも大事だが、救援体制の構築はどうなっているのか。国家指導者が成すべき事項は多々ある筈なのに、パフォーマンスに汲々しているような気がしてならぬ。報道も、救援を懸命にしているとか、奇跡的に救出したとかの宣伝臭が強すぎて辟易する。中国政府は、国民の愛国意識を振起し、一体感を醸成することに躍起になっているようだ。ともすれば暴発しかねない不満を抑えることが喫緊の課題なのだろう。

⑥ 二次災害対応や被災者の救援体制の早急なる構築を！

ライフラインの復旧や被災者の救援が大幅に遅れているようだ。後手後手になっている。国家の総力を結集すべき事態ではないのか。斯様な大震災への対応に関する計画やノウハウがないのではなかろうか。医療援助隊の派遣をようやく要請したようだが、遅きに過ぎる。大男は総身に知恵が回らぬのか？堰き止め湖やダムが決壊し土石流が発生して多くの住民が飲み込まれている。二次災害への対応がなされていないようだ。軍ならば何らかの方法により回避し得るはずだが…。数百万人に上る避難者救援や防疫等の対策はもっと早くに手を付けられた筈だが、効果的に為されていないようだ。

⑦ ボランティアの活動は、少ない？

中国の国民は余裕がないのだろうか。一富豪が私的救援部隊を編成して派遣したとは報道されているものの、大規模なボランティア活動が開始されているとは思えない。微々たる活動のようだが、実際は違うのか、そんなことはあるまい。機を見るに敏な中国政府がそのような活動を見逃すはずがない。

⑧ 暴動対処が基本、大前提か！

彼等が恐れているのは今回の災害を奇禍として暴動が惹起し、それが燎原の火の如くに広がることであろうと思わざるを得ない。その為に軍隊を拘置し、外国の援助を制限し、報道をも制限したのではなかろうか。その恐れが少なく或いは対処可能と判断した時点での災害対処であり外国援助の受け入れであろう。阪神大震災に乗じて外国勢力が直接・間接の侵略行為を為さないという保証はなく、当時防衛部長であった小生の頭の片隅にはその意識がなかったと言えば嘘であろう。

以上思いつくままに色々述べたが、素よりニュース報道以外に情報はなく独断や偏見が多多あるだろう。何れ詳細な情報が公開されよう。その際に小生の直感がどの程度正しかったのか、何処に認識の誤りがあったのかを知りたいと思う。